総　務　編

消　防　の　沿　革

昭和４５年、国の広域行政推進の一環により、昭和４５年１０月１日小林・えびの・西諸広域市町村圏協議会が発足し、広域市町村基本構想、基本計画（昭和４６年～昭和５５年の１０か年）が示され、共同処理事務として、消防防災救急体制等が打ち出された。これに基づき昭和４６年７月２８日西諸広域行政事務組合が発足、広域事務がスタートを切った。

消防については、圏域内で常備体制をとっていたのは小林市のみで、他の市町村は非常備消防団として運営していたが社会情勢の推移に伴い、災害の複雑多岐・多様化・大規模化と地域住民の過疎による消防力の不足、一方災害の防除に対し専門的技術の必要性及び救急業務の処理等消防行政の専門化、広域化、そして常備化の必要から、昭和４７年１０月２６日付けで、共同処理事務に消防業務が加えられ、西諸広域行政事務組合消防本部が発足することとなった。

平成２５年度緊急防災・減災事業として、広域訓練拠点施設・緊急避難場所・救急研修室（救護所)・備蓄倉庫等を兼ね備えた災害支援拠点施設が完成し、平成２６年５月１２日から運用されることとなった。

昭和４７．１０．２６	小林市、えびの市、高原町、野尻町、須木村の２市２町１村で、西諸広域行政事務組消防本部が発足。 小林市に消防本部（庶務係・予防係）及び中央消防署、高原町に中央消防署南分遣所、野尻町に中央消防署東分遣所、須木村に中央消防署北分遣所、えびの市に西消防署を設置、前小林市消防職員２９名を派遣職員として、消防本部及び中央消防署に配属し実働に入る。 窪谷達郎氏が消防長心得に就任
１１．　１	消防職員３４名採用、消防本部に警防係を設置し庶務係、予防係の３係となる。
昭和４８．　３．　１	消防職員１名採用
３．２５	水槽付消防ポンプ自動車（１．５ｔ積載）２台購入、西消防署と中央消防署南分遣所に配置、救急車１台購入西消防署に配置
３．３１	中央消防署南分遣所庁舎、同東分遣所庁舎が完成
４．　１	消防本部９名、中央消防署２２名、同南分遣所８名、同東分遣所５名、西消防署１４名で（西消防署は庁舎未完成のため、えびの市役所庁舎の一部を仮庁舎として）実働に入る。
４．　５	窪谷達郎消防長心得が中央消防署長となる。 新留時盛氏消防長就任、派遣職員４名小林市へ復帰、消防職員３名採用
４．１５	中央消防署北分遣所庁舎が完成し、中央消防署の予備車を配置し消防職員４名で実働に入る。
４．２０	消防職員９名採用
４．２８	連絡車（軽ライトバン）購入、消防本部に配置
５．　４	消防職員１名採用
５．１９	派遣職員４名小林市へ復帰
６．　４	消防職員４名採用
６．　６	西消防署庁舎が完成
６．１６	宮崎県農協共済組合連合会から救急車１台寄贈、中央消防署に配置
７．　２	消防職員６名採用
７．　６	消防職員１名退職

	８．２０	派遣職員３名小林市へ復帰
	９．　１	消防職員４名採用
	１０．１１	派遣職員４名小林市へ復帰
	１０．１５	消防職員１名採用
	１１．２０	消防ポンプ自動車購入、西消防署に配置
	１２．２５	水槽付消防ポンプ自動車２台購入、中央消防署東分遣所・同北分遣所に配置
昭和４９．	３．１１	消防職員３名採用
	５．　７	派遣職員７名小林市へ復帰
	５．１０	消防職員５名採用
	１０．　１	消防職員２名採用
昭和５０．	１．　８	派遣職員１名小林市へ復帰
	１．　９	消防職員１名採用
	５．２７	連絡車（軽ライトバン）２台購入、西消防署及び中央消防署東分遣所に配置
	５．３１	新留時盛消防長退職
	６．　１	窪谷達郎氏中央消防署長兼消防長心得となる
	７．　１	派遣職員１名小林市へ復帰、小林市から１名派遣
昭和５１．	３．　６	高速道路供用開始に伴う高速道路救急業務開始
	７．１０	連絡車（軽ライトバン）２台購入、中央消防署南分遣所及び同北分遣所に配置
	９．１１	日本船舶振興会から救急車（２Ｂ型）１台寄贈、中央消防署南分遣所に配置
	１０．　１	日本損害保険協会から消防ポンプ自動車（Ａ－１級）１台寄贈、西消防署に配置 旧消防ポンプ自動車をえびの市消防団第１分団第７部へ移管
	１２．　６	消防本部並びに中央消防署庁舎用地購入（５，８６０㎡） （住所）小林市大字真方４９３番地
	１２．１６	水槽付消防ポンプ自動車（Ａ－２級２ｔ積載）１台購入、中央消防署に配置 消防専用無線機購入、車載携帯兼用１０Ｗ４基　西消防署、中央消防署南・東・北各分遣所の査察広報車に搭載
昭和５２．	３．　３	消防職員１名退職
	５．１６	消防職員７名採用
	１０．２５	消防本部及び中央消防署庁舎の建設工事着工
	１１．　１	派遣職員５名、派遣を解き西諸広域行政事務組合消防職員に任命
昭和５３．	２．２８	消防職員１名退職
	３．２５	消防本部及び中央消防署庁舎が完成（延１，０６３．９７１㎡）
	４．　１	消防職員１名採用
昭和５４．	２．２０	窪谷達郎消防長心得が消防長となる
	４．　５	派遣職員１名小林市へ復帰
	６．２５	連絡車購入、消防本部へ配置
昭和５５．	５．１９	消防職員２名採用
	１０．１５	指令車購入、消防本部へ配置
昭和５６．	３．１７	高原町～都城市間高速道路供用開始に伴い、同区間の救急業務開始
	５．２１	消防職員１名採用

	６．　１	消防職員１名退職
	９．２５	日本消防協会から救急車１台寄贈、中央消防署に配置
	９．２６	えびの市～鹿児島県栗野町間の高速道路供用開始に伴い、同区間の救急業務開始
昭和５７．	３．３１	窪谷達郎消防長定年退職
	４．　１	別府鉄朗小林市助役が消防長事務取扱者を兼任
	４．１９	宮崎県共済農業協同組合連合会から救急車２台寄贈 西消防署と中央消防署南分遣所に配置 中央消防署南分遣所の旧救急車を中央消防署に配置
	１１．　２	消防職員１名退職
昭和５８．	４．２５	森祐一郎小林市長が消防長事務取扱者を兼任
	７．　１	松田利夫氏が小林市から消防長心得として出向
昭和５９．	２．　１	消防職員１名採用
	７．１０	消防本部査察広報車（予防車）購入
	１０．２９	消防ポンプ自動車（ＣＤ－Ⅱ）購入、中央消防署に配置
昭和６０．	４．　１	松田利夫消防長心得が消防長となる
	８．３１	消防職員１名退職
	１２．２０	水槽付消防ポンプ自動車（水１－Ａ型）購入、中央消防署北分遣所に配置
	１２．２４	大口市外三町消防組合と消防・救急業務相互応援協定締結
昭和６１．	１．２６	松田利夫消防長小林市へ復帰
	１．２７	中山藤作氏が小林市から消防長として出向
	３．２０	水槽付消防ポンプ自動車（水Ⅱ型）を２台更新、西消防署と中央消防署南分遣所に配置
	４．　１	熊本県上球磨消防組合と消防・救急業務相互応援協定締結
	４．１８	宮崎県共済農業協同組合連合会から救急車１台寄贈、中央消防署に配置
	５．　１	消防職員１名採用
	７．１０	査察広報車２台購入（１，８００ｃｃ）、中央消防署南分遣所・中央消防署北分遣所に配置
	７．２４	人吉下球磨消防組合と消防・救急業務相互応援協定締結
	７．３１	査察広報車２台購入（１，８００ｃｃ）、西消防署・中央消防署東分遣所に配置
	１２．２６	水槽付消防ポンプ自動車（水Ⅱ型）更新、中央消防署東分遣所に配置
昭和６２．	５．　４	消防職員１名退職
	６．３０	中山藤作消防長小林市へ復帰
	７．　１	角井勇消防本部次長が消防長に就任
昭和６３．	３．３１	角井勇消防長退職
	４．　１	内竹孝雄氏が小林市から消防長心得として出向、消防職員２名採用
	９．　９	西諸・えびの地区遊技場組合から救急車１台寄贈、西消防署へ配置
平成　元．	３．２７	救急車更新、中央消防署南分遣所に配置
	８．　１	内竹孝雄消防長心得が消防長となる
	１０．　４	査察広報２号車１台購入、消防本部に配置
	１１．３０	消防職員１名退職
	１２．　８	消防ポンプ自動車（ＢＤ－１型）更新、西消防署に配置
	１２．２６	水槽付消防ポンプ自動車（水Ⅱ型）更新、中央消防署に配置
平成　２．	１．　１	消防職員１名採用

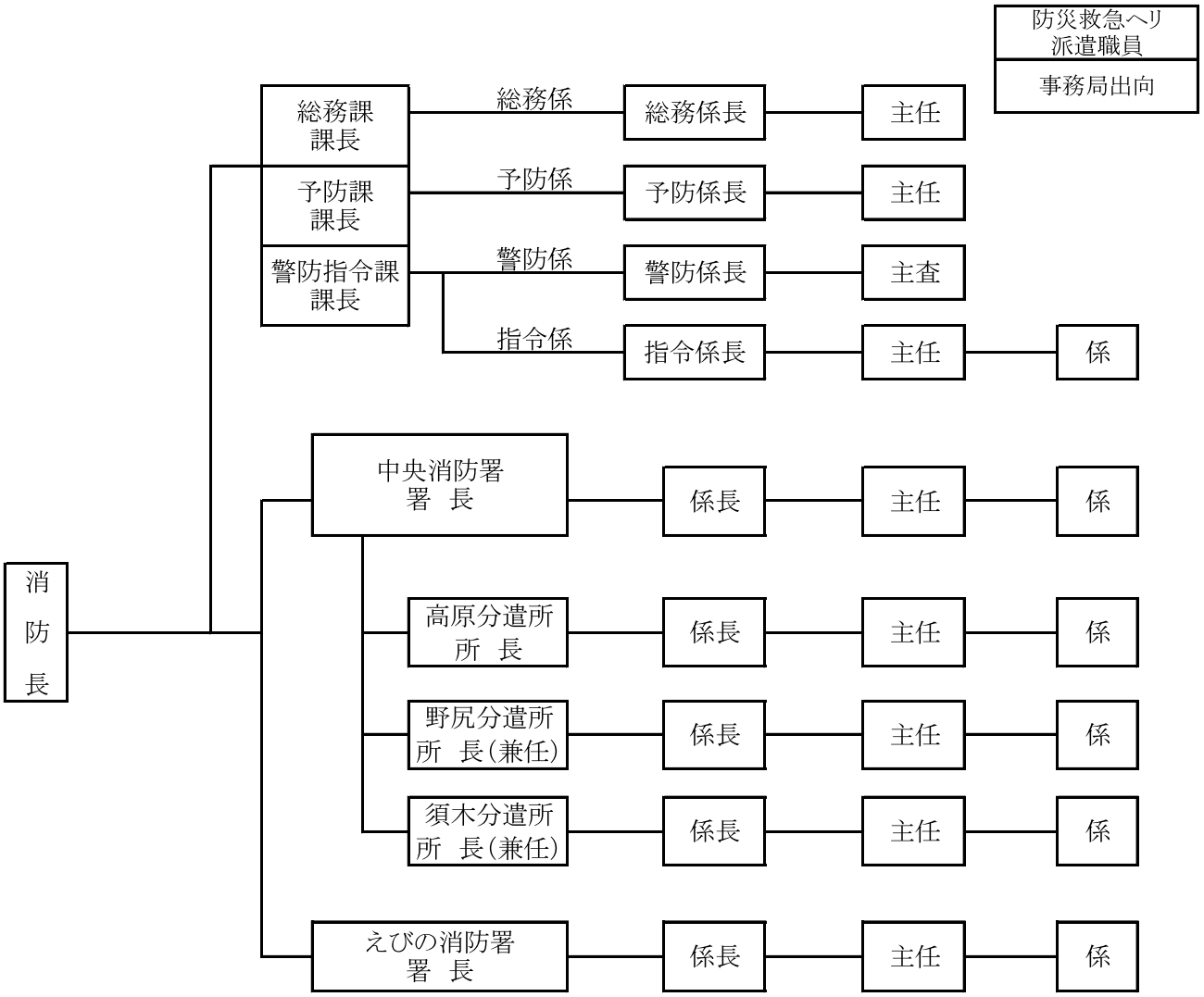
	３．１５	救助工作車購入
	３．３１	消防職員２名退職
	４．　１	消防職員２名採用
平成　３．	３．３１	救急車更新、中央消防署に配置
	８．２３	日本消防協会から救急車１台寄贈、中央消防署に配置
平成　４．	２．２９	指令車更新、消防本部に配置
	３．３１	内竹孝雄消防長小林市に復帰。消防職員１名定年退職
	４．　１	清水常喜消防本部次長が消防長となる。消防職員３名採用
	９．　１	消防職員１名採用
	１１．１９	消防職員１名退職
平成　５．	４．　１	消防職員５名採用
	１０．１５	中央消防署南分遣所改築工事着工（７工区）
	１０．２６	西諸広域行政事務組合消防設立２０周年式典
平成　６．	２．１５	組合規約の改正により「理事会」となる
	３．２０	中央消防署南分遣所改築工事が完了「鉄骨造、２階建」 仮眠室の個室化（延床面積７３２．２㎡）
	３．２９	救急車更新、西消防署に配置
	３．３１	清水常喜消防長定年退職
	４．　１	山下末男消防本部次長が消防長となる。消防職員５名採用
	１２．２０	消防本部査察広報車（予防車更新）
平成　７．	４．　１	消防職員５名採用
	４．１７	宮崎県共済農業協同組合連合会より救急車１台寄贈、中央消防署南分遣所に配置 旧南分遣所の救急車を高原町立病院へ移管
	４．２５	組合規約の改正により議員定数１２名となる
	７．２４	高速自動車国道の加久藤トンネル開通に伴う、えびの・人吉市間の救急業務供用開始
	１２．　８	高規格救急自動車購入、中央消防署に配置
平成　８．	４．　１	消防職員２名採用
平成　９．	１．２２	査察広報車５台更新（中央・西消防署、南・東・北分遣所に配置）
	３．３１	山下末男消防長退職
	４．　１	鰐野富吉消防本部次長が消防長となる。消防職員７名採用
	１０．２８	中央消防署東分遣所庁舎移転新築工事の着工
	１２．２２	消防ポンプ自動車更新、中央消防署に配置 高規格救急自動車購入、西消防署に配置
平成１０．	３．１０	中央消防署東分遣所移転新築工事が完了 仮眠室の個室化「鉄骨造、一部２階建」（床延面積７６１．０㎡）
	４．　１	救急自動車（救西１）を中央消防署東分遣所に配置 小林西諸パチンコ遊技場組合から査察広報車１台寄贈、消防本部に配置
	１２．　１	水槽付消防ポンプ自動車（水Ⅱ型）更新、中央消防署北分遣所に配置
平成１１．	３．　１	高規格救急自動車購入、中央消防署東分遣所に配置
	３．３１	鰐野富吉消防長退職。消防職員１名退職
	４．　１	鵜木義幸氏が小林市から消防長心得として出向 消防本部組織改正により３係制（庶務係・警防係・予防係）を２課制へ（総務課・予防課） 中央消防署を除く各署所を設置先市町村名に改名（えびの消防署・

		中央消防署高原分遣所・中央消防署野尻分遣所・中央消防署須木分遣所） 消防職員１名採用
	６．３０	高規格救急自動車購入、中央消防署高原分遣所に配置
	８．　２	水槽付消防ポンプ自動車（水Ⅱ型）更新、えびの消防署に配置
	１１．１１	中央消防署須木分遣所庁舎移転新築工事の着工
平成１２．	３．２５	中央消防署須木分遣所庁舎移転新築工事が完了 仮眠室の個室化「鉄骨造、平屋建」（床延面積４４２．５４㎡）
	７．２６	水槽付消防ポンプ自動車（水Ⅱ型）更新、中央消防署野尻分遣所に配置
	８．　８	えびの消防署庁舎移転新築工事の着工
	１２．１５	消防ポンプ自動車（ＣＤ－１型）更新、えびの消防署に配置
平成１３．	２．２１	えびの消防署庁舎移転新築工事が完了 仮眠室の個室化「鉄骨造、２階建」（床延べ面積８３２．２㎡）
	４．　１	鵜木義幸消防長心得が消防長となる。
	９．２０	中央消防署庁舎の増改築及び改修工事の着工
	１２．１８	水槽付消防ポンプ自動車（水Ⅱ型）更新、中央消防署高原分遣所に配置
平成１４．	３．２０	中央消防署庁舎の増改築及び改修工事が完了 仮眠室の個室化「鉄骨造、２階建及び既存庁舎の改修」 （床面積３８７．５２㎡、延床面積１，４２１．４９㎡）
	３．３１	鵜木義幸消防長が小林市に復帰。事務吏員１名退職
	４．　１	貴嶋俊介消防本部次長が消防長となる。消防職員２名採用
	９．　９	消防本部・中央消防署庁舎の防水及び外壁塗替え工事着工
	１１．２７	消防本部・中央消防署庁舎の防水及び外壁塗替え工事完了
	１２．２４	水槽付消防ポンプ自動車（水Ⅱ型）更新、中央消防署に配置
平成１５．	１．３１	消防職員１名退職
	４．　１	西諸広域行政事務組合職員定数条例一部改正により消防職員定数を１０９名から１２６名に改正（平準化） 消防職員１名採用
	９．　１	中央消防署須木分遣所の救急車配置に伴い高原分遣所・野尻分遣所から各２名異動
	９．１１	救急自動車新規購入、中央消防署須木分遣所に配置 救急業務運用開始
平成１６．	２．２３	救助工作車更新（大型１種免許）、中央消防署に配置
	４．　１	消防職員４名採用（平準化）
	１０．　１	宮崎県防災救急ヘリ航空隊発足により隊員１名派遣
平成１７．	２．　７	寄贈高規格救急自動車更新、中央消防署に配置
	４．　１	消防職員４名採用（平準化）
	１０．１７	救助訓練塔起工式
平成１８．	３．１５	救助訓練塔完成
	３．２０	小林市と須木村が合併し新小林市誕生
	１．３１	消防職員１名退職
	４．　１	消防職員４名採用（平準化） セパレート型防火服採用
	６．３０	消防職員１名退職
	１０．　２	中央消防署食堂改修工事終了
平成１９．	３．３１	消防職員１名退職
	３．３１	宮崎県防災救急ヘリ航空隊員１名、前任者と交替派遣

	４．　１	隔日勤務組織改革（係制）
		消防職員４名採用（平準化）
	１０．　２	消防本部・中央消防署公共下水道接続工事終了
	１０．　４	消防職員１名退職
	１１．１５	高規格救急車更新、えびの消防署に配置
	１２．１４	多目的資機材搬送車購入、中央消防署に配置
	１２．１７	野尻分遣所公共下水道接続工事終了
平成２０．	３．３１	消防職員４名退職
	４．　１	消防職員４名採用（平準化）
	７．　４	大淀川左岸地区かんがい用水施設（野尻町区域分）の使用等に関する管理協定書締結
	８．　４	消防本部空調設備改修工事完了
平成２１．	３．３１	消防職員８名退職
	４．　１	消防職員５名採用（平準化）
	１１．１０	災害対応特殊消防ポンプ自動車更新　中央消防署に配置
	１２．１０	災害対応特殊救急自動車更新　中央消防署に配置
	１２．２５	岩下兄弟株式会社より消防用広報車寄贈　消防本部に配置
平成２２．	３．２３	小林市と野尻町が合併し新小林市誕生
	１．２６	消防職員１名退職
	３．３１	消防職員６名退職
	４．　１	原田利男消防本部次長が消防長となる。消防職員６名採用（平準化）
	６．１０	高機能消防指令センター総合整備事業の着工
	１１．１６	消防本部指令室等改築工事終了
	１２．１５	査察広報車更新、えびの消防署に配置
	１２．３１	消防職員１名退職
平成２３．	３．　１	高機能消防指令センター運用開始
	３．１１	東日本大震災「Ｍ９．０　震度７」
	３．１４	緊急消防援助隊宮崎県隊として車両２台、隊員８名の２隊を派遣
	３．３１	消防職員５名退職
	４．　１	里岡弘幸消防本部次長が消防長となる。消防職員１０名採用（平準化）
	９．１２	野尻分遣所地上消火栓・庁舎浴室給水栓取替工事完了
		消防本部救急救助訓練塔壁板張替工事完了
平成２４．	４．　１	柚木脇充消防本部警防指令課課長が消防長となる。
		消防職員６名採用（平準化）
	４．１０	消防職員１名退職
	４．２０	消防救急デジタル無線システム工事の着工
	１０．２５	高規格救急自動車更新、野尻分遣所に配置
	１１．２８	査察広報車更新、高原分遣所に配置
平成２５．	３．１８	消防救急デジタル無線システム工事完了
	３．２９	ＪＡ共済連合会宮崎から高規格救急自動車１台寄贈、中央消防署に配置
	３．３１	消防職員４名退職
	３．３１	宮崎県防災救急ヘリ航空隊員１名、前任者と交替派遣
	４．　１	野間和則消防本部警防指令課課長が消防長となる。
		消防職員７名採用（平準化）
	６．２６	西諸広域行政事務組合災害支援拠点施設の建設、消防本部改修工事着工
	７．１０	資機材搬送車を購入、えびの消防署に配置

	９．２６	消防本部予防車更新
平成２６．	１．　９	査察広報車更新、中央消防署に配置
	１．２２	消防職員１名退職
	３．　７	高規格救急自動車更新、高原分遣所に配置
	３．３１	査察広報車２台更新、野尻分遣所・須木分遣所に配置 消防職員５名退職
	４．　１	消防職員４名採用（平準化）
	４．３０	西諸広域行政事務組合災害支援拠点施設完成 （鉄筋コンクリート一部鉄骨造３階建、延べ面積１，０６１㎡）
	５．１２	西諸広域行政事務組合災害支援拠点施設２階事務室に消防本部及び事務局を移転
	７．２２	消防本部改修工事完了（２階：仮眠室、会議室、食堂）
	１１．　１	消防職員１名退職
平成２７．	１．２１	消防職員１名退職
	１．２８	水槽付消防ポンプ自動車更新、えびの消防署に配置
	３．３１	消防職員８名退職
	４．　１	消防職員８名採用
平成２８．	３．　１	水槽付消防ポンプ自動車更新、中央消防署に配置
	３．　１	高規格救急自動車更新、えびの消防署に配置
	３．３１	消防職員６名退職
	３．３１	宮崎県防災救急ヘリ航空隊員１名、前任者と交替派遣
	４．　１	木佐貫幸男消防本部警防指令課課長が消防長となる。
	４．　１	消防職員６名採用
	４．１４	熊本地震「前震：Ｍ６．５　震度７」
	４．１５	緊急消防援助隊宮崎県隊として車両２台、隊員７名の２隊を派遣 ※緊急消防援助隊宮崎県隊として熊本市及び南阿蘇町に延３１名 （期間：4.15～4.26）
	４．１６	熊本地震「本震：Ｍ７．３　震度７」

消 防 の 組 織 と 配 置 職 員 数



（消防本部・各署所の人員）

区分＼署所	消防本部	中央消防署	えびの消防署	高原分遣所	野尻分遣所	須木分遣所	宮崎県防災救急ヘリ	事務局出向	合計
人員	22	33	22	15	10	10	1	1	114

※中央消防署長は野尻分遣所長及び須木分遣所長を兼務

（消 防 職 員 階 級 別 配 置 表）

署所＼階級	消防監	司令長	司 令	司令補	士 長	副士長	消防士	事務職員	合計
消 防 本 部	1		5	3	11 (2)		4		24 (2)
中央消防署		1		2	12	1	17		33
えびの消防署			1	2	8		11		22
高原分遣所			1		5	1	8		15
野尻分遣所					4		6		10
須木分遣所					4		6		10
計	1	1	7	7	44	2	52	0	114

※消防本部の士長(2)は防災救急ヘリ派遣職員1名、事務局へ出向1名

消防本部及び署所の事務分掌

総　務　課

１．消防予算の編成及び執行に関すること。
２．補助金等の編成及び執行に関すること。
３．公印の管理に関すること。
４．職員の人事給与事務及び表彰に関すること。
５．職員の勤務条件・福利厚生及び労働安全衛生に関すること。
６．公務災害補償等に関すること。
７．消防職員委員会に関すること。
８．文書の収受、発送及び保存に関すること。
９．消防手数料に関すること。
１０．消防の財産に関すること。
１１．条例、規則及び訓令等の制定又は改正に関すること。
１２．総務関係の統計調査に関すること。
１３．消防年報に関すること。
１４．消防広報に関すること。
１５．職員の教育及び研修に関すること。
１６．他の課に属さない業務に関すること。

警　防　指　令　課

１．火災、救急、救助その他災害出動の指令業務に関すること。
２．消防通信施設等の維持管理に関すること。
３．気象情報の受理及び火災警報の発令に関すること。
４．車両及び機械器具の購入並びに維持管理に関すること。
５．各種災害時に関係機関との連絡調整に関すること。
６．緊急援助隊等の相互応援協定に関すること。
７．消防団員の訓練指導に関すること。
８．警防計画の作成に関すること。
９．火災防御訓練等に関すること。
１０．消防水利の調査保全に関すること。
１１．救急及び救助事務に関すること。
１２．応急手当の普及啓発活動に関すること。
１３．警防関係の統計調査に関すること。
１４．その他警防業務に関すること。

予　防　課

１．防火対象物の査察及び火災予防の指導に関すること。
２．消防用設備等の設置検査に関すること。
３．火災予防思想の普及及び啓発に関すること。
４．防火管理者講習に関すること。
５．建築確認申請に関すること。
６．危険物施設の査察及び火災予防の指導に関すること。
７．危険物の許認可及び取り締まりに関すること。
８．危険物取扱者の安全教育に関すること。
９．液化石油ガス及び火薬施設の保全確保に関すること。
１０．煙火の消費許可に関すること。
１１．火災原因及び損害の調査報告に関すること。
１２．予防関係の統計調査に関すること。
１３．その他予防業務に関すること。

消 防 署

（１）庶務係

ア　公印の管理に関すること。
イ　届出及び証明に関する事務並びに文書の収受、発送及び整理保存に関すること。
ウ　消防手数料に関すること。
エ　諸手当の集計に関すること。
オ　消防団との連絡調整に関すること。
カ　消防施設及び機械器具等の維持管理に関すること。
キ　その他署長が命令する事項。

（２）救急救助係

ア　救急救助業務の企画に関すること。
イ　救急救助装備、資機材整備に関すること。
ウ　救助技術の研究及び訓練に関すること。
エ　救急救命講習等の普及啓蒙に関すること。
オ　救急救助に関する統計に関すること。
カ　その他署長が命令する事項。

（３）予防調査係

ア　火災調査及び火災統計に関すること。
イ　防火対象物の調査及び指導並びに違反処理に関すること。
ウ　火災予防条例に規定に伴う調査及び指導に関すること。
エ　消防に関する調査研究、その他各種事故等の調査に関すること。
オ　その他署長が命令する事項。

分 遣 所

（１）消防係

ア　公印の管理に関すること。
イ　届出及び証明に関する事務並びに文書の収受、発送及び整理保存に関すること。
ウ　消防手数料に関すること。
エ　諸手当の集計に関すること。
オ　消防団との連絡調整に関すること。
カ　消防施設及び機械器具等の維持管理に関すること。
キ　救急救助業務の企画に関すること。
ク　救急救助装備、資機材整備に関すること。
ケ　救助技術の研究及び訓練に関すること。
コ　救急救命講習等の普及啓蒙に関すること。
サ　救急救助に関する統計に関すること。
シ　火災調査及び火災統計に関すること。
ス　防火対象物の調査及び指導並びに違反処理に関すること。
セ　火災予防条例に規定に伴う調査及び指導に関すること。
ソ　消防に関する調査研究、その他各種事故等の調査に関すること。
タ　その他署長が命令する事項。

常 備 消 防 構 成 団 体

市　町	市 町 長 名	市 町 庁 舎 所 在 地
小　林　市	肥　後　正　弘	小林市細野３００番地
え び の 市	村　岡　隆　明	えびの市大字栗下１２９２番地
高　原　町	日　高　光　浩	西諸県郡高原町大字西麓８９９番地

消防本部、署（所）の名称・位置・管轄区域

名　　称		位　　置	管　轄　区　域
消防本部		小林市真方４９３番地	
中央消防署		小林市真方４９３番地	小林市・高原町
中央消防署	高原分遣所	西諸県郡高原町大字西麓１７４番地	高原町全域
	野尻分遣所	小林市野尻町東麓１１４７番地１	小林市野尻町全域
	須木分遣所	小林市須木中原１６９６番地１６	小林市須木全域
えびの消防署		えびの市大字大明司８６３番地１	えびの市

（注）高速道路（九州自動車道及び宮崎自動車道）の管轄区域については救急救助編に記載

消防車・消防職員等に対する人口等の割合

区　　分	人口（人）	世帯数（世帯）	面積（㎢）
職 員 １ 人 当 た り	６５８	２８０	８．１６
消防自動車１台当たり	１０，７２２	４，５６８	１３３．０３
救 急 車 １ 台 当 た り	１２，５０９	５，３３０	１５５．２１
署 所 １ か 所 当 た り	１５，０１１	６，３９６	１８６．２５

消防吏員（１１４名）、消防自動車（７台）、救急自動車（６台）、署所（５）
本圏域９３１．２７㎢
（平成２７年国勢調査の人口・世帯数）

消防庁舎の概要

消防本部・中央消防署・災害支援拠点施設



※1　中央消防署



※2　災害支援拠点施設

消防本部は施設内2階に移転

所在地	竣工年度	構造	延床面積 ㎡	敷地面積 ㎡
小林市真方493番地	※1　昭和52年度	鉄筋コンクリート造 2階建PH付 一部鉄骨造	1,421.49	5,689.97
	※2　平成26年度	RC3階建一部鉄骨造	1,061.51	

えびの消防署





個室仮眠室

所在地	竣工年度	構造	延床面積 ㎡	敷地面積 ㎡
えびの市大字大明司863番地1	平成12年度	鉄骨造2階建	832.20	3,854.00

高原分遣所





個室仮眠室

所在地	竣工年度	構造	延床面積 ㎡	敷地面積 ㎡
西諸県郡 高原町大字西麓174番地	平成5年度	鉄骨造2階建	732.20	1,559.72

野尻分遣所





個室仮眠室

所在地	竣工年度	構造	延床面積 ㎡	敷地面積 ㎡
小林市野尻町東麓1147番地1	平成9年度	鉄骨造2階建	761.00	1,953.25

須木分遣所





個室仮眠室

所在地	竣工年度	構造	延床面積 ㎡	敷地面積 ㎡
小林市須木中原1696番地16	平成11年度	鉄骨造平屋建	442.54	1,081.40

西諸広域行政事務組合消防本部管内図



消防費歳入当初予算の比較

（単位：千円）

款	節	平成26年度	平成27年度	平成28年度	前年比
分担金及び負担金	消防費負担金	913,152	944,404	913,210	-31,194
使用料及び手数料	消防手数料	593	591	591	0
国庫支出金	消防費補助金	0	1	0	-1
県支出金	消防費県補助金	1	0	0	0
財産収入	利子及び配当金	2	2	2	0
繰入金	消防施設等整備基金繰入金	0	0	0	0
諸収入	雑入	26,801	26,389	26,744	355
組合債	消防・防災施設事業	0	0		0
	合計	940,549	971,387	940,547	-30,840

消防費歳出当初予算の比較

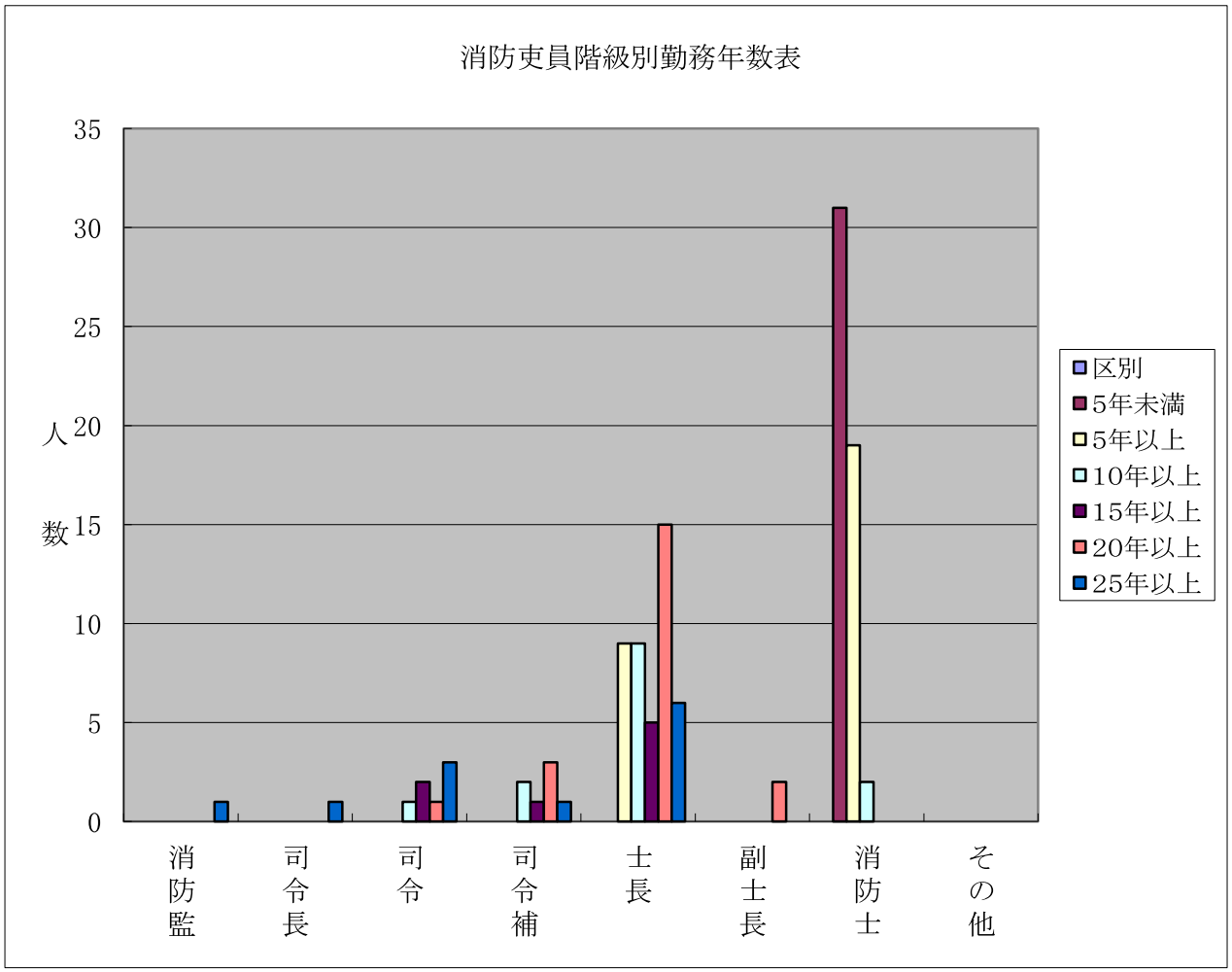
（単位：千円）

款　項　目	節	平成26年度	平成27年度	平成28年度	前年比
消防費		940,549	971,387	940,547	-30,840
常備消防費		930,651	959,632	921,663	-37,969
	報酬	0	0		0
	給料	375,346	357,263	351,633	-5,630
	職員手当等	254,688	251,488	253,395	1,907
	共済費	132,792	136,962	123,991	-12,971
	報償費	10	70	70	0
	旅費	5,885	6,627	5,917	-710
	需用費	36,848	42,034	36,958	-5,076
	役務費	13,806	14,855	14,995	140
	委託料	25,931	24,708	23,642	-1,066
	使用料及び賃借料	8,458	8,858	8,001	-857
	原材料費	81	101	100	-1
	備品購入費	62,525	105,552	92,414	-13,138
	負担金補助及び交付金	9,726	8,162	7,635	-527
	補償補填及び交付金	1	1	1	0
	償還金、利子及び割引金	4,083	2,283	2,307	24
	積立金	1	1	1	0
	公課費	470	667	603	-64
消防施設費		9,898	11,755	18,884	7,129
	需用費	2,000	2,500	4,148	1,648
	役務費	472	473	627	154
	委託料	2,337	2,263	2,029	-234
	使用料及び賃借料	0	0	0	0
	工事請負費	2,627	4,876	11,504	6,628
	備品購入費	2,461	1,642	575	-1,067
	積立金	1	1	1	0

消 防 吏 員 階 級 別 勤 務 年 数 表

平成28年12月31日現在

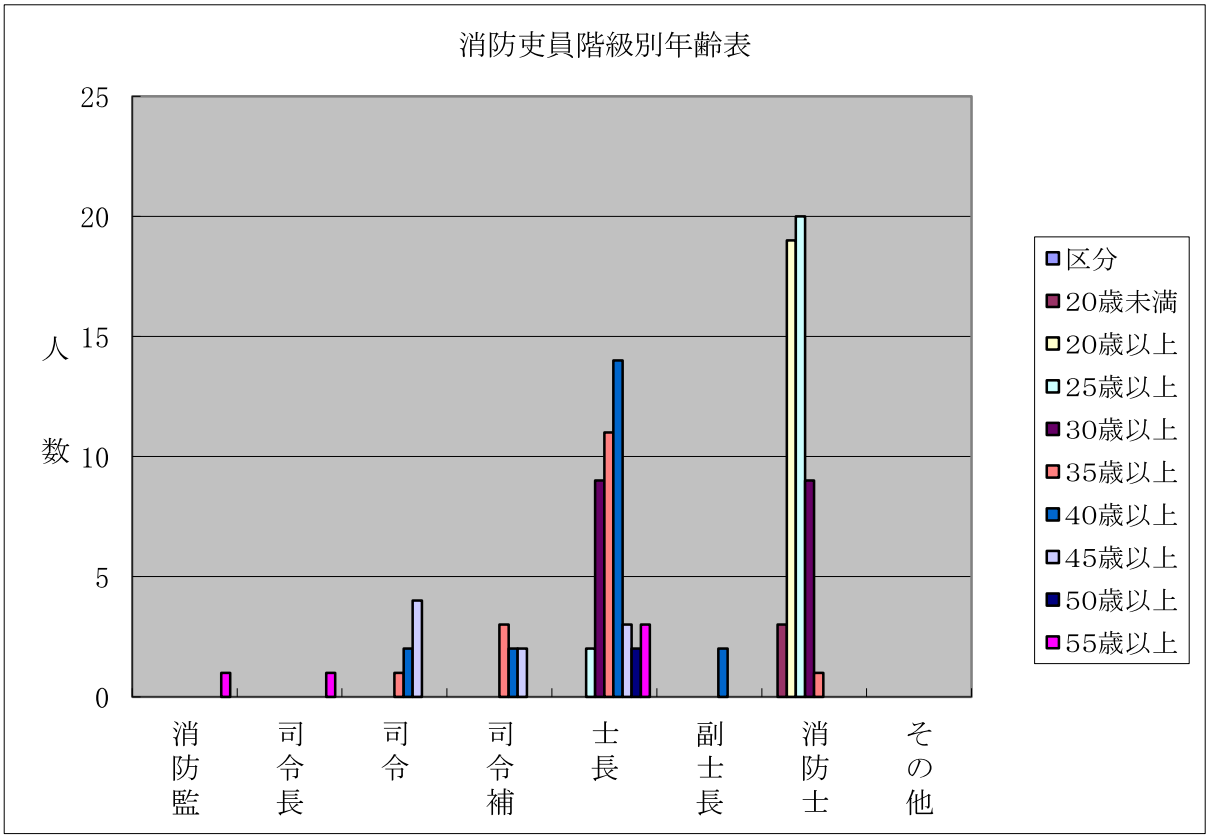
階級 / 区別	消防監	司令長	司令	司令補	士長	副士長	消防士	その他	合計
5年未満							31		31
5年以上					9		19		28
10年以上			1	2	9		2		14
15年以上			2	1	5				8
20年以上			1	3	15	2			21
25年以上	1	1	3	1	6				12
計	1	1	7	7	44	2	52	0	114



消 防 吏 員 階 級 別 年 齢 表

平成28年12月31日現在

区分＼階級	消防監	司令長	司令	司令補	士長	副士長	消防士	その他	合計
20歳未満							3		3
20歳以上							19		19
25歳以上					2		20		22
30歳以上					9		9		18
35歳以上			1	3	11		1		16
40歳以上			2	2	14	2			20
45歳以上			4	2	3				9
50歳以上					2				2
55歳以上	1	1			3				5
計	1	1	7	7	44	2	52		114
平均年齢	58	60	44.6	41.8	40.6	41.3	25.8		34.5



歴 代 消 防 長（含 事 務 取 扱 者）

消 防 長 名	就 任 年 月 日	退 任 年 月 日	備　　考
窪 谷 達 郎	昭和４７年１０月２６日	昭和４８年　４月　４日	消 防 長 心 得
新 留 時 盛	昭和４８年　４月　５日	昭和５０年　５月３１日	消防長
窪 谷 達 郎	昭和５０年　６月　１日	昭和５４年　２月１９日	中央消防署長兼 消 防 長 心 得
窪 谷 達 郎	昭和５４年　２月２０日	昭和５７年　３月３１日	消防長
別 府 鉄 朗	昭和５７年　４月　１日	昭和５８年　４月２４日	消防長事務取扱者
森　祐一郎	昭和５８年　４月２５日	昭和５８年　６月３０日	消防長事務取扱者
松 田 利 夫	昭和５８年　７月　１日	昭和６０年　３月３１日	消 防 長 心 得
松 田 利 夫	昭和６０年　４月　１日	昭和６１年　１月２６日	消防長
中 山 藤 作	昭和６１年　１月２７日	昭和６２年　６月３０日	消防長
角 井　勇	昭和６２年　７月　１日	昭和６３年　３月３１日	消防長
内 竹 孝 雄	昭和６３年　４月　１日	平成　元年　７月３１日	消 防 長 心 得
内 竹 孝 雄	平成　元年　８月　１日	平成　４年　３月３１日	消防長
清 水 常 喜	平成　４年　４月　１日	平成　６年　３月３１日	消防長
山 下 末 男	平成　６年　４月　１日	平成　９年　３月３１日	消防長
鷆 野 富 吉	平成　９年　４月　１日	平成１１年　３月３１日	消防長
鵜 木 義 幸	平成１１年　４月　１日	平成１３年　３月３１日	消 防 長 心 得
鵜 木 義 幸	平成１３年　４月　１日	平成１４年　３月３１日	消防長
貴 嶋 俊 介	平成１４年　４月　１日	平成２２年　３月３１日	消防長
原 田 利 男	平成２２年　４月　１日	平成２３年　３月３１日	消防長
里 岡 弘 幸	平成２３年　４月　１日	平成２４年　３月３１日	消防長
柚 木 脇 充	平成２４年　４月　１日	平成２５年　３月３１日	消防長
野 間 和 則	平成２５年　４月　１日	平成２８年　３月３１日	消防長
木佐貫 幸男	平成２８年　４月　１日	現在に至る	消防長